

Q 10 現在、糖尿病治療薬のグルコバイ[®]を食前に服用中です。ほかのクスリと一緒に「食後の服用」としてはだめでしょうか？

A 10 透析患者さんの血糖管理には、多くはインスリンが使用されていると思います。内服治療では、血糖降下薬といわれるものに多くの種類があります。しかし、種類によっては副作用と低血糖が持続してしまうことから、禁忌となっているものもあります。そのため選択しづらいのですが、自己注射が困難なことから、インスリン製剤の投与が難しい患者さんに対して、血糖降下薬を投与することがあります。以下に、血糖降下薬の特徴を説明したいと思います。

① α -グルコシダーゼ阻害薬（グルコバイ[®]、ベイスン[®]など）

「 α -グルコシダーゼ阻害薬」は、糖質（炭水化物）の消化・吸収を遅らせるクスリです。食べ物に含まれる糖質は、小腸でブドウ糖に分解されてから吸収されますが、その際糖質を分解する働きをするのが「 α -グルコシダーゼ」という酵素です。 α -グルコシダーゼ阻害薬は、この酵素の働きを抑えて、小腸から血液中へのブドウ糖の吸収を緩やかにするクスリです。従って、このクスリは食後の血糖値が急激に上昇するのを抑えるのに、大変有効

です。ですので、食事の直前に服用しなければ意味がありません。

② 速効型インスリン分泌促進薬（ファスティック[®]、グルファスト[®]など）

すい臓の β 細胞に結合し、インスリン分泌を促進します。服用後、短時間で血糖降下作用を発揮します。必ず食直前に服用します。透析患者さんでは重篤な低血糖を起こすことがあり、使用は禁忌とされています。

③ スルホニル尿素（SU）剤（オイグルコン[®]、アマリール[®]など）

すい臓に直接働きかけて、インスリン分泌を促して血糖値を下げるクスリです。腎障害のある患者さんでは薬剂量が少量でも遷延性低血糖（低血糖状態が長引くこと）を起こすこともあり、注意が必要です。

そのほかにもビグアナイド剤（グリコラン[®]、メルビン[®]など）やチアゾリジン剤（アクトス[®]など）といった薬剤もありますが、透析患者さんには禁忌となっています。

内服時期はクスリの効果を出すために非常に重要なので、必ず守るようにしましょう。

（角田政隆、橋本史生／
H・N・メディック さつぼろ東・医師）